

夏を見つめた日

もう少し 南風が強く吹いてくれれば 真っ青な空になる海辺に 裸足のまま
きっと君はT シャツを揺らしながら かけてきそうな気がした
海と話をする君 波と戯れる君
焼け付く白い砂と 夏の輝く瞳で僕を惑わす

風が少し吹いて来たのだろう 君の長い髪をなびかせる

僕は 木陰からずっと夏を見ていた
波に歌う光の調べが ときめく胸を通り抜けて行く
時間がもっとほしいと願う時ほど はかなくて美しいこと
君の焼けた背中に短い夏を見た

波が君の足跡を消す前に 君のTシャツが乾く前に ポケットに夏の砂と
笑っていた君を入れて 騒がしい街に戻らないと
夏の海辺は 次の季節を待ちわびているから

By, T,O

